

Express Runtime



**Express Runtime スタートアップ・ガイド:
ソリューションのデプロイ**

バージョン 2.1.1

Express Runtime



Express Runtime スタートアップ・ガイド: ソリューションのデプロイ

バージョン 2.1.1

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、23 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Express Runtime (製品番号 5724-J10) バージョン 2、リリース 1、モディフィケーション 1 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： Express Runtime
Express Runtime Getting Started Guide for Deploying a Solution
Version 2.1.1

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.11

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2003, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

| | |
|---|---|
| 第 1 章 本書について 1 | ターゲット・コンピューターへの IBM Installation Agent のインストール 10 |
| 本書の対象読者 1 | |
| 第 2 章 Express Runtime の概念 3 | 第 5 章 Express Runtime を使用したデプロイ 11 |
| デプロイメント・ウィザード 3 | デプロイメント・ウィザードの開始 11 |
| IBM Installation Agent 3 | ソリューションのデプロイ 12 |
| Express Runtime コンソール 3 | |
| Express Runtime ミドルウェア・コンポーネント . . . 4 | 第 6 章 使用可能なその他の資料 15 |
| 第 3 章 Express Runtime を使用する準備 5 | 第 7 章 トラブルシューティング 17 |
| 第 4 章 デプロイメントの計画 7 | 第 8 章 アクセシビリティ 19 |
| デプロイメントの計画用チェックリスト 7 | 第 9 章 商標 21 |
| Express Runtime を使用できるオペレーティング・システム 7 | 付録. 特記事項. 23 |
| ソリューションの取得 8 | |
| デプロイするタスクの決定 9 | |
| ソリューションをデプロイするターゲット・コンピューターの決定 9 | |

第 1 章 本書について

本書では、IBM® Express Runtime について説明します。Express Runtime は、アプリケーションおよび IBM ミドルウェア・コンポーネントを単一のパッケージとして複数のプラットフォームにデプロイする際に役立ちます。

このガイドは、初めてこの製品を使用するユーザーを対象としたもので、Express Runtime を使用してソリューションを迅速にデプロイする方法を理解する際に役立ちます。

本書の対象読者

このガイドは、Express Runtime を使用して、IBM ミドルウェア・コンポーネントおよびオプションのアプリケーションを構成、デプロイ、および管理することを計画しているエンド・ユーザーを対象としています。エンド・ユーザーは、IBM Express Runtime を使用してソリューションを開発したサード・パーティーからソリューションを入手するか、組み込まれている Express Runtime ミドルウェア専用ソリューションを使用します。エンド・ユーザーを対象とするソリューション・ファイルを作成し、カスタマイズするには、「*IBM Express Runtime スタートアップ・ガイド: デプロイメント用ソリューションの開発 バージョン 2.1.1*」を参照してください。

この資料は、読者が Express Runtime を以前に使用した経験がないことを想定しています。Express Runtime をインストールするオペレーティング・システムについて熟知している必要があります。使用するオペレーティング・システムについての情報は、『システム要件』を参照してください。組み込みミドルウェア・コンポーネントについての情報は、『Express Runtime ミドルウェア・コンポーネント』を参照してください。

第 2 章 Express Runtime の概念

Express Runtime は、ビジネス・パートナーが提供するアプリケーションと組み合わせることでトータル・ビジネス・ソリューションを生み出す、結合性の高いミドルウェア・コンポーネントのセットを提供します。Express Runtime は、ミドルウェア・コンポーネントおよびソリューションを、インストール、構成、および管理するための時間、労力、および複雑さを大幅に削減します。

デプロイメント・ウィザード

デプロイメント・ウィザードは、Express Runtime ソリューションをターゲット・コンピューターにデプロイするのに役立ちます。デプロイメント・ウィザードは、ソリューションの構成からデプロイメントにわたってステップバイステップでガイドします。これは、ソース・コンピューター (ステージング・サーバーとして知られています) 上で稼働し、ソリューションをローカルまたはリモートにデプロイすることができます。デプロイメント・ウィザードは、以下のタスクの実行を支援します。これらについては、『Express Runtime を使用したデプロイ』の章で詳しく説明します。

- デプロイするタスクの選択
- 各タスクのターゲット・コンピューターの指定
- 各タスクのデプロイメント・パラメーターの構成
- タスクの要約情報の確認
- 1 つ以上のタスクのデプロイ
- デプロイメント状況のモニター

IBM Installation Agent

IBM Installation Agent は、ターゲット・コンピューター上で Express Runtime ソリューションのコンポーネントの受信およびインストールを支援します。ターゲット・コンピューターへのデプロイメントを開始する前に、ローカル・ホスト以外のそれぞれのターゲット・コンピューターで、IBM Installation Agent がインストールされ、稼働していることが必要です。IBM Installation Agent は、Express Runtime に同梱されています。Installation Agent に関する詳しい情報は、IBM Installation Agent InfoCenter で入手できます。

Express Runtime コンソール

Express Runtime コンソールは、複数のオペレーティング・システム上のサーバーを、単一の Web ベースの場所から管理するのを支援します。これにより、Express Runtime ミドルウェア・コンポーネントをホスティングするサーバー上で管理用タスクを実行するための簡単な方法が提供されます。Express Runtime コンソールを使用して、以下のタスクを実行することができます。

- Express Runtime ミドルウェアの管理
- 頻繁な管理用タスクの実行

- 各個人のユーザー役割に対するタスクのカスタマイズ
- 共通ロギングを使用したシステムのモニター

Express Runtime ミドルウェア・コンポーネント

Express Runtime ソリューションは、以下の 1 つ以上の IBM ミドルウェア・コンポーネントをインストールします。

IBM DB2 Universal Database™ Express Edition for Windows® および Linux™ (i5/OS™ または OS/400® データベースをオペレーティング・システムに内蔵)

DB2 Universal Database Express UDB は中小規模のビジネス・ニーズに合わせて設計されており、自己調整、自己管理、および自己構成の各機能の特長としています。これらの機能によって、複雑さや必要なスキルを軽減しつつ、信頼性の向上を図ります。

IBM Informix® Dynamic Server – Express

Informix Dynamic Server (IDS) は、IBM の拡張可能なオブジェクト・リレーショナル・データベース・サーバーです。IDS は、オンデマンド・コンピューティング、WebSphere®、SQL の OLTP および OLAP データ管理アプリケーション、動的 SQL、C++、Java™ の各言語をサポートします。

IBM WebSphere Application Server – Express

IBM WebSphere Application Server – Express は、コードを生成することができるウィザードおよびテンプレートを備えており、静的および動的な Web サイトの開発、デプロイ、および管理を支援します。データベース内の情報の表示、更新の実行、および Web サービスの作成と使用が可能です。

IBM HTTP Server for Windows, Linux, および i5/OS または OS/400

あらゆるオンデマンド・ビジネス・アプリケーションの基礎は、Web サーバーです。IBM HTTP Server は、SSL セキュア接続、高速応答キャッシュ・アクセラレーター、およびサーバーの管理および構成を支援する管理サーバーを使用します。

第 3 章 Express Runtime を使用する準備

エンド・ユーザーとして Express Runtime を使用するには、以下のいずれかの方法で行います。

- IBM ビジネス・パートナーが、完全なソリューション・イメージを提供し、Express Runtime を単独にインストールすることなくソリューションをデプロイする方法を指示します。
- IBM ミドルウェア・コンポーネントのみをデプロイする場合は、Express Runtime を完全にインストールする必要はありません。
- IBM ビジネス・パートナーから、Express Runtime をインストールするのに必要なソリューション・ファイルが渡されてから、そのソリューション・ファイルを開いてソリューションをデプロイします。このシナリオの場合は、「*Express Runtime スタートアップ・ガイド (ビジネス・パートナー向け)*」を参照してください。

ビジネス・パートナーから完全なソリューション・イメージを受け取った場合、必要な Express Runtime の部分はすべてそのソリューション・イメージに含まれています。Express Runtime 製品の個別のコピーは必要ありません。デプロイメントの基本的な流れは以下のとおりです。

1. ソリューション・イメージ・メディアを挿入する。
2. ランチパッドが表示され、イメージをインストールするようプロンプトが出される。
3. イメージのインストールを開始すると、Express Runtime デプロイメント・ウィザードが表示され、ビジネス・パートナーが設定していない変数の値を設定するか、ビジネス・パートナーによって設定された変数を変更するようプロンプトが出される。
4. すべての値を指定するとすぐに、デプロイメント・ウィザードがソリューションのターゲット・コンピューターへのデプロイを開始する。
5. ミドルウェア・コンポーネントおよびアプリケーションは、ターゲット・コンピューター上の設定値でインストールされる。
6. デプロイメントが完了し、デプロイメント・ウィザードを終了すると、デプロイしたコンピューターにインストールされたファイルはすべて自動的に除去される。

Express Runtime に含まれる IBM ミドルウェアのみをデプロイしてインストールする場合は、Express Runtime 製品を入手しても製品全体をインストールする必要はありません。デプロイメントの基本的な流れは以下のとおりです。

1. Express Runtime 製品メディアを挿入する。
2. ランチパッドが表示され、組み込まれている IBM ミドルウェアのみをインストールするようプロンプトが出される。
3. ミドルウェア・コンポーネントのインストールを指示すると、Express Runtime デプロイメント・ウィザードが表示され、必要なミドルウェアを選択し、変数を設定するようプロンプトが出される。

4. すべての値を指定するとすぐに、デプロイメント・ウィザードがミドルウェア・コンポーネントのターゲット・コンピューターへのデプロイを開始する。
5. ミドルウェア・コンポーネントは、ターゲット・コンピューター上の設定値でインストールされる。
6. デプロイメントが完了し、デプロイメント・ウィザードを終了すると、デプロイしたコンピューターにインストールされたファイルはすべて自動的に除去される。

第 4 章 デプロイメントの計画

このセクションでは、Express Runtime を使用したソリューションのデプロイに役立つ計画情報を提供します。このセクションには、以下のトピックの情報があります。

- デプロイメントの計画用チェックリスト
- Express Runtime を使用できるオペレーティング・システム
- デプロイするソリューションの取得
- デプロイするタスクの決定
- デプロイするターゲット・コンピューターの決定
- ターゲット・コンピューターへの IBM Installation Agent のインストール

デプロイメントの計画用チェックリスト

Express Runtime を使用してソリューションをデプロイするには、以下のチェックリストにあるタスクが完了していることを確認してください。それぞれのタスクについての詳細は、以降のセクションで説明します。

1. Express Runtime をインストールするコンピューター (ステージング・サーバーとも呼ばれる) で、正しいタイプのオペレーティング・システムが使用されているかどうか検査する。
2. Express Runtime ソリューションを入手する。カスタマイズされた Express Runtime ソリューションを開発したサード・パーティーからカスタマイズされたソリューションを入手するか、あるいは、Express Runtime 製品と共に提供されるミドルウェア専用ソリューションを使用して、組み込み IBM ミドルウェア・コンポーネントをデプロイすることができます。
3. ソリューションか、ミドルウェア・コンポーネントのうちどちらをデプロイするのかを決定する。
4. デプロイするターゲット・コンピューターを決定する。
5. IBM Installation Agent をそれぞれのリモート・ターゲット・コンピューターにインストールする。

Express Runtime を使用できるオペレーティング・システム

以下の表は、Express Runtime のインストール先のコンピューターで使用できるオペレーティング・システムを示しています。このコンピューターはまた、ソリューションのデプロイ元となるコンピューターでもあります。このコンピューターが、サポートされるオペレーティング・システムを使用していることを確認してください。

表 1.

| プラットフォーム | 開発 | ステージング・サーバー |
|----------------------|-----|-------------|
| OS/400 V5R2 および V5R3 | いいえ | いいえ |

表 1. (続き)

| プラットフォーム | 開発 | ステージング・サーバー |
|--|-----|-------------|
| Red Hat Linux 3.0 - Red Hat Enterprise Linux | はい | はい |
| Red Hat Linux 4.0 - Red Hat Enterprise Linux | いいえ | はい |
| SUSE LINUX 9.0 - SUSE LINUX Enterprise Server | はい | はい |
| SUSE LINUX 8.0 - SUSE LINUX Enterprise Server | いいえ | はい |
| LINUX on POWER™ (SUSE LINUX Enterprise Server 9.0、Red Hat Enterprise Linux AS 3.0、または Red Hat Enterprise Linux AS 4.0 を使用) | いいえ | はい |
| RedFlag AS 4.1 Linux | いいえ | はい |
| Windows 2000 Server または Advanced Server SP4 以上 | はい | はい |
| Windows 2003 Server Standard および Enterprise SP1 以上 | はい | はい |
| Windows XP Professional SP2 以上 | はい | はい |
| Windows 2000 Professional SP3 以上 | はい | はい |

ソリューションの取得

デプロイメント・ウィザードは、ソリューション・ファイルを使用してソリューションをデプロイします。ビジネス・パートナーからソリューション・ランチャー・イメージが提供されている場合、ソリューション・ファイルはそのイメージの一部として組み込まれています。ソリューション・ファイルには、拡張子 `.ser` が付いており、デプロイすることができるタスク、およびデプロイメントを正常に完了させるために必要なカスタマイズについての情報が含まれています。

ビジネス・パートナーからカスタム・ソリューション・ファイルを取得するか、あるいは Express Runtime とともに提供されるミドルウェア専用ソリューションを使用することができます。ミドルウェアのみのソリューションには、Express Runtime ミドルウェアを適切なオペレーティング・システムにデプロイするのを支援するタスクが含まれています。ビジネス・パートナーから取得したソリューションには、ビジネス・パートナーによってカスタマイズされた、Express Runtime ミドルウェア・コンポーネントのデプロイを支援するタスクが含まれています。ソリューションには、カスタマイズされたビジネス・パートナーのアプリケーションも含まれません。

デプロイするタスクの決定

Express Runtime ソリューションは、1 つ以上のタスクで構成されています。1 つのタスクは、ミドルウェア・コンポーネントのインストールなど、デプロイメント・ウィザードによって実行される 1 つ以上のアクションのグループです。ソリューションの中からデプロイするタスクを 1 つ以上選択します。

Express Runtime ソリューション・デベロッパーからソリューションを取得した場合、いくつかのタスクが事前に選択されていることがあります。タスクが事前に選択されている場合は、ソリューション・プロバイダーが、事前選択されているタスクのデプロイを推奨していることを意味します。ソリューションの他のタスクが選択可能な場合、オプションでそれらを選択し、デプロイメント・ウィザードを使用してデプロイメントすることができます。あるいは、Express Runtime ソリューションの開発者によって、ソリューション内のすべてのタスクをデプロイするように指示される場合もあります。

Express Runtime とともに提供されたミドルウェアのみのソリューションを使用する場合、事前に選択されたタスクはありません。ミドルウェアのみのソリューションでは、それぞれの中ウェア・コンポーネントが 1 つのタスクとして表示されます。

ソリューションをデプロイするターゲット・コンピューターの決定

デプロイメント・ウィザードでは、ソリューションを、デプロイメント・ウィザードが稼働するコンピューターにローカルにデプロイするか、他のコンピューターにリモートにデプロイすることができます。ソリューションをリモートにデプロイする場合は、IBM Installation Agent が、それぞれのターゲット・コンピューター上で稼働している必要があります。デプロイメント・ウィザードがステージング・サーバーからデプロイメントを開始するときに、タスク情報がターゲット・コンピューターに送信されます。それぞれの IBM Installation Agent がターゲット・コンピューター上でタスク情報を受信し、指定されたタスクを完了します。Express Runtime ソリューション・デベロッパーは、ローカル・ホストのみにデプロイするソリューションを作成することができます。この場合、ユーザーがターゲット・コンピューター情報を見る必要はありません。

ソリューションをデプロイするターゲット・コンピューターが、有効なターゲット・コンピューター・オペレーティング・システムを使用していることを検査してください。以下の表は、サポートされるターゲット・オペレーティング・システムを示しています。

表 2.

| プラットフォーム | デプロイメント・ターゲット |
|---|---------------|
| OS/400 V5R2 および V5R3 | はい |
| Red Hat Linux 3.0 - Red Hat Enterprise Linux | はい |
| Red Hat Linux 4.0 - Red Hat Enterprise Linux | はい |
| SUSE LINUX 9.0 - SUSE LINUX Enterprise Server | はい |
| SUSE LINUX 8.0 - SUSE LINUX Enterprise Server | はい |

表 2. (続き)

| プラットフォーム | デプロイメント・ターゲット |
|--|---------------|
| LINUX on POWER (SUSE LINUX Enterprise Server 9.0、Red Hat Enterprise Linux AS 3.0、または Red Hat Enterprise Linux AS 4.0 を使用) | はい |
| RedFlag AS 4.1 Linux | はい |
| Windows 2000 Server または Advanced Server SP4 以上 | はい |
| Windows 2003 Server Standard および Enterprise SP1 以上 | はい |
| Windows XP Professional SP2 以上 (注: Informix [®] Dynamic Server が、Windows XP Professional SP 2 をサポートする唯一の Express Runtime ミドルウェアです。) | いいえ |
| Windows 2000 Professional SP3 以上 | はい |

Express Runtime コンソールは、IBM OS/400 バージョン 5 リリース 2 または IBM i5/OS バージョン 5 リリース 3 にデプロイすることはできません。

ターゲット・コンピューターへの IBM Installation Agent のインストール

IBM Installation Agent を、ソリューションをリモートでデプロイする予定の各ターゲット・コンピューターにインストールします。IBM Installation Agent ランチパッドから IBM Installation Agent のインストールを開始します。Windows では、インストール CD または DVD から自動的にランチパッドが開始されます。ネットワーク・ロケーションからデプロイする場合、またはランチパッドが自動的に開始されない場合は、Windows では launchpad.exe、Linux では launchpad.sh を使用して開始します。

IBM Installation Agent ランチパッドでは、以下のタスクの実行を制御することができます。

- IBM Installation Agent のインストール
- IBM Installation Agent 前提条件の表示
- IBM Installation Agent の README ファイルの表示

IBM Installation Agent のインストールについて詳しくは、IBM Installation Agent InfoCenter およびランチパッドを使用してインストールする場合は製品資料を参照してください。

第 5 章 Express Runtime を使用したデプロイ

Express Runtime デプロイメント・ウィザードは、ソリューションの構成およびデプロイに必要なステップをガイドします。Express Runtime によって提供されるミドルウェアのみのソリューションを使用して、Express Runtime ミドルウェア・コンポーネントをデプロイするか、あるいはビジネス・パートナーによって提供されるカスタム・ソリューションを使用して、トータル・ビジネス・ソリューションをデプロイすることができます。Express Runtime を使用してソリューションをデプロイするには、以下のプロセスを完了します。

1. デプロイメント・ウィザードを開始する。
2. デプロイメント・ウィザードでソリューション・ファイルを開く。
3. デプロイするタスクを選択する。
4. 選択されたタスクを構成する。
5. デプロイメントを開始する。

デプロイメント・ウィザードの開始

デプロイメント・ウィザードの開始には、いくつかの方法があります。以下の方法のいずれかを使用してデプロイメント・ウィザードを開始します。

ソリューション・ランチャー・イメージを使用したソリューションのデプロイ

ビジネス・パートナーによって、CD または DVD でソリューション・ランチャー・イメージが提供されている場合は、以下のステップを完了します。

1. ソリューション・ランチャー・イメージの CD または DVD を挿入する。
2. ソリューション・ランチャーが自動的に開始されます。このプロセスは、システムの速度、ハード・ディスクの状態 (フラグメント化されている場合)、およびディスク・アクセスの速度に応じて、数秒から数分かかる場合があります。
3. ランチパッドが表示されたら、「ソリューションのデプロイ (Deploy solution)」をクリックして、デプロイメント・ウィザードを開始する。ランチパッドが自動的に開始されないときは、Microsoft® Windows の場合は `launchpad.exe` プログラム、Linux の場合は `launchpad.sh` プログラムを使用して開始します。これらのプログラムは両方とも、ビジネス・パートナーによって提供された CD または DVD にあります。
4. デプロイメント・ウィザードが、ソリューションを開いて開始される。

Express Runtime ミドルウェア・コンポーネントのみのデプロイ

Express Runtime ミドルウェア・コンポーネントのみをデプロイするために Express Runtime を購入し、Express Runtime インストールで「ミドルウェアのみデプロイ (Deploy Middleware Only)」を選択した場合、デプロイメント・ウィザードは自動的にミドルウェア専用ソリューションを開いて開始します。デプロイメント・ウィザードを閉じると、Express Runtime ファイルがコンピューターから自動的に除去され

ます。デプロイメント・ウィザードを再始動するには、Express Runtime インストールを再始動して、再度「ミドルウェアのみデプロイ (Deploy Middleware Only)」を選択してください。

インストール済み Express Runtime を使用したデプロイ

Express Runtime 製品が既にインストールされている場合は、以下のステップに従って、デプロイメント・ウィザードを開始し、ビジネス・パートナーによって提供されたソリューションを開きます。

1. デプロイメント・ウィザードを開始する。Microsoft Windows オペレーティング・システムでは、「スタート」>「プログラム」>「IBM Express Runtime 2.1」>「デプロイメント・ウィザード」とクリックします。Linux オペレーティング・システムでは、「メインメニュー (Main Menu)」>「IBM Express Runtime 2.1」>「デプロイメント・ウィザード」とクリックします。
2. デプロイするソリューションを開く。ソリューションを開くには、デプロイメント・ウィザードで、「ファイル (File)」>「開く (Open)」をクリックします。
3. ソリューション (.ser) ファイルの場所をブラウズし、「開く (Open)」をクリックする。
4. デプロイメント・ウィザードは、指定されたソリューションを開いて初期設定される。

ソリューションのデプロイ

デプロイメント・ウィザードが開始され、ソリューションが開かれるとソリューションの構成およびデプロイを開始することができます。デプロイメント・ウィザードは、ソリューションのカスタマイズおよびデプロイメントを完了するために、以下のステップをガイドします。

1. デプロイメント・ウィザードのウェルカム・ダイアログを読む。「次へ (Next)」をクリックします。
2. 「タスクの選択」ダイアログで、デプロイするタスクに対応するチェック・ボックスをクリックしてタスクを選択する。「次へ (Next)」をクリックします。このステップをそれぞれの「タスクの選択」ダイアログごとに繰り返します。
3. 「ターゲットの指定」ダイアログが表示されたら、ターゲット・コンピューターのホストまたは IP アドレスを入力し、「追加」をクリックする。ソリューションを、デプロイメント・ウィザードを実行しているコンピューター上にローカルにデプロイするには、ホスト名として「localhost」と入力します。「ターゲットの指定」ダイアログが表示されない場合、ソリューションはローカル・ホストにのみデプロイされます。他のコンピューターにタスクをデプロイするには、新規のホスト名または IP アドレスを入力し、「追加」をクリックします。IBM Installation Agent ソフトウェアが、ローカル・コンピューター以外のすべてのターゲット・マシンにインストールされている必要があります。すべてのホスト名が、それぞれのタスクごとに追加されるまで繰り返します。「次へ (Next)」をクリックします。
4. 「構成の指定 (Specify Configuration)」ダイアログで、デプロイメント・ウィザードが必要とするすべての構成パラメーターの値を入力する。構成ダイアログには、「標準」タブおよび「拡張」タブの両方にパラメーターがある場合があります。「拡張」タブのパラメーターは、多くのユーザーにとって必要ではないの

で、これらの変更は経験のあるユーザーのみが行います。「次へ (Next)」をクリックします。このステップを、構成情報を必要とするタスクごとに繰り返します。

5. 「要約 (Summary)」ダイアログの情報を検討する。要約ダイアログのすべてのタスクをデプロイするには、「すべてをデプロイ」をクリックします。1 つのタスクのみをデプロイするオプションが使用可能であるときにそれを利用する場合は、そのタスクに対応する「デプロイ (Deploy)」ボタンをクリックします。

「状況」ダイアログで、デプロイメントが完了するまでのデプロイメントの進行をモニターすることができます。

第 6 章 使用可能なその他の資料

次の表では、使用可能なその他の資料について説明します。

表 3. その他の資料

| 情報単位 | 目的 | アクセス方法 |
|-----------------------------------|---|--|
| Express Runtime InfoCenter | インストール、開発、デプロイメント、および保守手順から概念やトラブルシューティング情報までの関連製品情報について説明します。 | Express Runtime ライブラリー・ページ (http://www.ibm.com/software/webservers/expressruntime/library/) またはデプロイメント・ウィザードの「ヘルプ」メニューから。 |
| Express Runtime リリース情報 | README と呼ばれ、Express Runtime InfoCenter には記載されていない製品情報について説明します。 | Express Runtime CD または DVD から。 |
| IBM Installation Agent InfoCenter | IBM Installation Agent のインストールおよび構成方法について説明します。概念およびトラブルシューティング情報も記載されています。 | Express Runtime ライブラリー・ページ (http://www.ibm.com/software/webservers/expressruntime/library/) から。 |
| IBM Installation Agent リリース情報 | README と呼ばれ、IBM Installation Agent InfoCenter には記載されていない製品情報について説明します。 | IBM Installation Agent CD または DVD から。 |

IBM ミドルウェアの資料については、ミドルウェア・コンポーネントをインストールして、各製品の資料を参照してください。各ミドルウェア・コンポーネントの資料には、以下の Web サイトからもアクセスできます。

IBM DB2 Universal Database Express:

<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb/>

Informix Dynamic Server Express:

<http://www.ibm.com/software/data/informix/ids/>

IBM WebSphere Application Server – Express

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/express/>

IBM HTTP Server for Windows、Linux、および OS/400 または i5/OS

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

Express Runtime の資料とは別に、Express Runtime ソリューションのデベロッパーからそのソリューションに関する資料が提供される場合があります。

第 7 章 トラブルシューティング

デプロイメント中にエラーが発生した場合は、以下のタスクを実行して問題の原因を識別してください。

- 「状況」ダイアログで「**詳細なメッセージ**」をクリックする。新規ダイアログにメッセージのテーブルが表示されます。詳細を表示したり、エラーの詳細を印刷したりするには、メッセージをダブルクリックします。
- ステージング・サーバーがすべてのターゲット・コンピューターと通信できることを確認する。デプロイメント・ウィザードの左のナビゲーションを使用して、「**ターゲットの指定**」をクリックします。それぞれの「ターゲットの指定」ダイアログで「**接続のテスト**」をクリックし、エージェントがすべてのターゲット・コンピューターで稼働していることを確認します。
- ログ・ファイル `<InstallPath>%logs%IRU_DeploymentWizard.log` を表示する。`<InstallPath>` は Express Runtime をインストールした場所です。
- 表示されているエラー・メッセージを記録する。

第 8 章 アクセシビリティ

スクリーン・リーダー・ソフトウェアを使用して、デプロイメント・ウィザードのユーザー・インターフェースに表示されている内容を読み上げさせることができます。すべての機能は、マウスの代わりにキーボードを使用して操作できます。

Express Runtime は、フォントや色の設定などの、システムのアクセシビリティ設定を遵守します。アクセラレーターおよびニームニック・キーは、Express Runtime 全体で使用可能です。これらは、メニュー・バーおよび関連するプルダウン・メニュー上で示されています。

マウスで行うことのできる操作を、キーまたはキーの組み合わせで行うことも可能です。多くのメニュー操作は、キーボードから開始することができます。上記の場合、相当するキーボード操作がメニュー項目の右側に表示されているか、ショートカット文字に下線が引かれています。また、以下のキーボード・ショートカットも使用可能になっています。

タブ ユーザー・インターフェース全体をナビゲートします。

矢印キー

ユーザー・インターフェース内の各パネル内をナビゲートします。

F3 選択した列のサイズを徐々に減らします。

F4 選択した列のサイズを徐々に増やします。

F5 選択した列を左に移動します。

F6 選択した列を右に移動します。

Linux のナビゲート

Linux で CTRL+Tab を使用してパネルをナビゲートできない場合には、代わりに CTRL+ALT+Tab を使用してください。これがデフォルトのナビゲーション方法ではない場合、オペレーティング・システムの資料を参照してナビゲーション設定を変更してください。

第 9 章 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

- AIX[®]
- DB2[®]
- IBM
- i5/OS
- Informix
- OS/400
- WebSphere

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴ、および Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows NT[®] は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

UNIX[®] は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel[®] および Pentium[®] は、Intel Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。



Printed in Japan